

温暖化の主因は二酸化炭素？ これも予防原則？

副題：環境主義者は、データを徹底的に分析していない

## 今の温暖化は「二酸化炭素が主因である」は真実か？

温暖化論者がいう、「二酸化炭素が温暖化の主因である」これは、人類が発生させた二酸化炭素による影響である。といい、現在の温暖化論争を主導している。これは本当であろうか。

「ゴア氏」が温暖化に警鐘を発し、ノーベル賞を受賞したが、彼はその時も豪邸に住み、ふんだんにエネルギーを使用していた (2007 年に大幅に省エネ住宅に改造したが)。本当に信じていたのか？

なぜ、温暖化が最優先なのか？ 核兵器廃絶や紛争解決が最優先ではないのか。

何故か政治的な意図があるように感じられるのは、私の偏見、いや変人故か。

以下、文献を探ってみた。

「温暖化のウソと真実 千代島 雅 著」には、「温暖化が二酸化炭素原因説で、科学的に説明されていない事項について疑義を主張している。」として警鐘をならしている。

この本では、

- ・温暖化はしていたとしても、二酸化炭素が原因でない

- ・温暖化した結果として二酸化炭素が増えている。

この事が正しく説明されなければならず、そうでなければ、「嘘の施策」で世界が動いていることになる。

図 3-4 (本のとおりに記載) を見ると、

気温上昇が激しかった 1880 年代から 1940 年頃の二酸化炭素上昇は緩やかであり、1940 年代から 1980 年代の急激な二酸化炭素上昇期は、気温の上昇がさほどない。

この事を二酸化炭素主因説の人から説明されていない。

この比率は、

1880 年代から 1940 年頃

気温上昇 0.60 度      二酸化炭素上昇 14.5ppm

1940 年代から 1980 年代

気温上昇 0.15 度      二酸化炭素上昇 50.5ppm



図 3-4 気温と二酸化炭素濃度の上昇の関係

図 3-5 を見ると、

気温が上昇してから、その後に、二酸化炭素が増えているように見える。

温暖化論者は、この説明をしていない。

もし、このグラフを素直に見、考察すれば、

気温上昇により、海や他の場所からの二酸化炭素の発生・二酸化炭素生物から発生しているように考えられる。

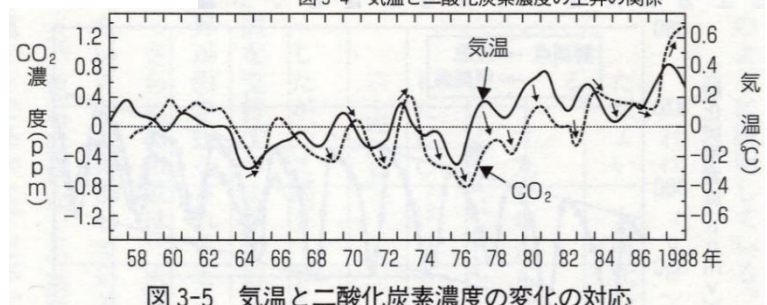


図 3-5 気温と二酸化炭素濃度の変化の対応

そうだとすれば、気温上昇の原因は別にあることを示唆する。

ここ伊勢崎市も暑くなった実感があるが、この主たる要因は、東京都の都市熱「ヒートアイランド現象」による熱い空気層が上層大気となり、周囲に流れ込み、この影響が群馬県南部迄及んでいるからと考えることもできる。このように、都市部やその周辺の気温は正確に地球温暖化の実情をあらわしてはいない。

例えば、東京の観測地点を大手町から北の丸公園に移動したことで、1.4℃低下した。館林市は街中から 2km 離れた高校のグラウンドに変更して 0.7℃低下したという。この都市熱は日本だけではなく世界のいたるところで起こっていて、これが地球の気候に影響を与えていると、温暖化論者は考えないのか。

このことについても、「千代島 雅氏」は、次のように説明している。

図2-4、図2-5を見ると、都市熱の影響のない測定個所では、気温上昇がみられない。

図2-6を見ると更にその事実が明確にわかる。

温暖化論者はこの説明をしていない。

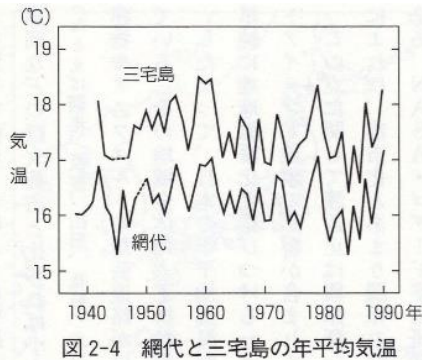


図2-4 網代と三宅島の年平均気温

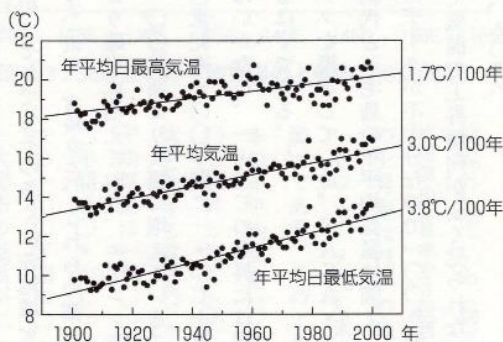


図2-5 東京都心部（大手町）における年平均気温の変化

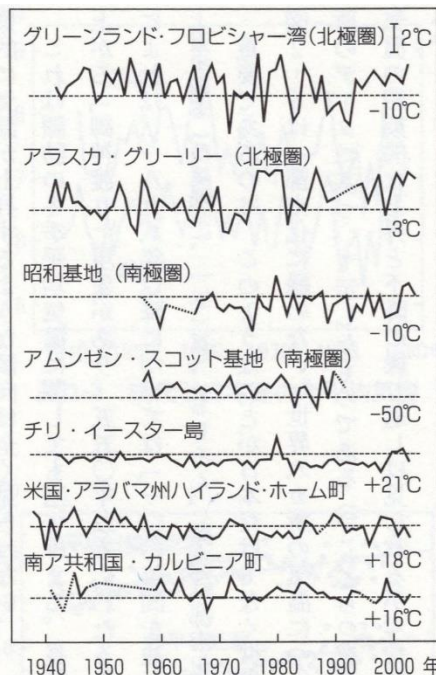


図2-6 都市化に縁のない世界6カ所の気温

## 「温暖化の主因は二酸化炭素」説の人達の不都合な現実

### 発展途上国では、

国の資金力が乏しいため、暖房・炊事・生活・生産におけるエネルギー源は一番安い資源を利用する。それは、石炭であり、薪であり、石油であろう。

この使用を全面的にやめる、との論点は、彼らにこのエネルギー源を使うな、ということであり、発展をやめろ、ということに同義であろう。このことをどのように解決しようとしているのか説明していない。

### 工業国では、

製鉄業や重化学工業の生産におけるエネルギー源は石炭や重油である。

これらを再生可能エネルギーに転換するのはそんなに簡単ではない。しかしながら二酸化炭素削減を実現するために全ての生産設備を電気エネルギー使用に作り変えれば、再生可能エネルギーとしての、新たなエネルギー源を構築する必要がある。これはそんなに簡単なことではない。さらに、この設備改造コストや再生エネルギーコストの上昇分を製品に上乗せする必要がある、世界同時に行わなければ公平さを欠くことになる。

### 農業では、

焼き畑農業や森林を耕作地に切り替える農業がおこなわれ、食料生産や商品価値の高い農産物の生産を禁止することになり、これらを行っている国々の生産活動の代替手段について納得できる説明をしていない。

### 再生可能エネルギーへの切り替えとは、

例えば、太陽光発電では日本の全エネルギーを太陽光で確保するとすれば最善の状態です。「東京+神奈川+埼玉+千葉」の面積が必要となる。こういうことが実現できるのだろうか。

バイオマス発電については後述する。

## まとめると

### 地球シミュレーションの過信

地球シミュレーションによる気温上昇を警鐘の主張の主要部として取り上げているが、「過去の気温上昇を近い状態で再現できれば、未来の気温上昇も正しく予測できる」と、いうことを信じられるか？

単に変数・係数・式をいじくりまわして、過去を再現しただけであり、未来に起こる気象を正しく予測できると云えるのか。

### 環境主義者の主張の裏に透けて見えるもの

「持続可能な経済発展」の実現は、先進諸国は相応に削減をすることができるが、中・後進諸国の経済発展を抑制するということになり、結果、彼の国の貧困問題は解決できない。

「地球人口の増加問題」についても、人口が増えすぎる。世界人口を抑制する必要がある。と云っているが、これは、中・後進国の抑制を迫るものである。(既に日本をはじめ先進国では自国の人口は減少傾向)

全て、先進国の保護のため。先進国が安心して生きていけるため

### 「グローバリゼーション」に頼る危うさ

では、持てる国から持たざる国への支援は可能か。

これについても、今回の、新型コロナウイルス流行で露呈したのは、持てる国（金持ち国・ワクチンや防疫や医療材の製造国、所謂白人の国）と持たざる国（貧困国と供給を受ける国）との2国グループがあり、この2国群間に「持てる国から、持たざる国へ、分け与える」ということが起こっていない。アメリカ、イギリスなどの生産国が優先され、今もって集団免疫に必要なワクチン量を、他の国へ配付はなされていない。日本もオリンピックがあったから配付が優先された、とも考えられる。また、昨年春のマスク不足のときも供給（中国の輸出制限）は自国最優先であった。

これは、「グローバリゼーション」に頼る危うさを露呈したと云えないのか。所謂「グローバリゼーション」とは、一部の先進国が世界を牛耳りがたいために言い始めたことであり、都合が悪くなると、それぞれの国が、「自国第一主義」を貫いたこと、このことが正しいと「意思表示」したことを意味するのではないか。

### 持たざる国への配布は本当にできるのか

エネルギーにつて、温暖化対策で、「二酸化炭素排出の少ない・ゼロ」のエネルギーを潤沢に中・後進国へ提供することなどできるはずがないと考えることは不都合なことなのか。

食料についてもしかり。購入資金のない国への潤沢な食料配布など本当にやれるのか。

温暖化論者の論旨にはこの点が欠けている。責任をもってこの点を説明すべきだと考える。

### 歴史学者もいう

新型コロナウイルスで露呈したこと エマニュエル トッド (仏・歴史学者)

グローバリゼーションに未来はない

人は自分の考え方の範囲で現実を解釈する

国家が自国の産業を保護しようと決断することの大切さ

### 政治家（元 大統領）もいう

温暖化の欺瞞……ヴァーツラフ・クラウス 元チェコ大統領（政治家であり経済学者）

原子力発電所を廃止するというが、原発一基に対し、代替として風力発電所は2万箇所必要である

バイオマス発電では、100万ヘクタールの土地が必要になる（千葉県と埼玉県を合わせた面積）

環境主義者は、データを徹底的に分析していない

…… 都合の良いデータだけを都合の良いように分析して結論付けている